

普及活動基本計画(令和5年度～8年度)の概要

中央農業改良普及センター
令和5年3月(令和6年1月修正)

普及計画の狙い・方針

前計画:令和元～4年度

- 効率的、安定的な農業経営の実現をめざし、
 - 個々の農業経営体の育成に重点を置きながら、
 - 課題が共通している品目分野別に計画を策定

普及活動を取り巻く情勢の変化

- 農業者の減少に伴い、地域や産地のまとまりが希薄化
- 資材の価格高騰、脱炭素化の動きの加速で、より厳しい経営
- 一方で、農家やJAは、組織的に継続的な普及指導を期待

本計画:令和5～8年度

- 産地と地域農業の課題にフォーカスした2本立ての計画
- 県全体計画(I～IV)・地域普及センター計画(V)
- 指標項目を引き続き設定、組織をあげて継続的に進捗管理を実施

I 水田農業の持続化

地域において、水田営農システムが整備され、実需者のニーズに対応した水田作物が生産されている姿

- 指標項目:ロッドマップに基づく取組数 - 取組 → 160取組
- 米の品質向上、高温登熟性の高い品種導入、麦・大豆などの生産性向上
- 肥料高騰に対応した堆肥の活用促進、野菜など水田への高収益作物の導入
- 組織経営の農業法人の育成、中山間地域の家族農業が継続する仕組みの検討



水田営農システムの導入に向けた集客の話し合い

II 産地の改革

I 伊勢茶産地を次世代につなげる構造改革の推進(茶)

担い手への茶園の集積や自らの強みを生かした生産・販売、次代を担う若手生産者の育成が進む環境が整備されている姿

- 指標項目:茶園利用の合意形成に取組む産地数 1産地 → 6産地

産地における意向把握や課題の明確化、産地全体で茶園利用について話し合う場づくり

需要に応じた生産体制の整備、スマート技術の導入、他品目の導入による複合経営の促進

2 果樹産地の次代を切り拓く構造改革の推進(果樹)

産地の農家が目標を共有して課題解決に取り組む、担い手の育成や効率的な生産に向けた環境が整備されている姿

- 指標項目:産地の農家が将来目標を共有した産地数 10産地 → 15産地

産地の現状把握と目標の設定、課題解決方針の合意に向けたコーディネート

優良園地の保全、労働生産性を向上させる技術・設備の導入促進

3 消費を意識した花き花木産地の構造改革(花き花木)

産地として、全国的な知名度の向上と効率的な物流体制が構築されている姿

- 指標項目:物流対策に取り組む生産者数 5人 → 10人

花き花木の展示会の継続実施、生産者による情報発信強化、花育・緑育の推進

生産者と運送業者の連携による効果的な物流対策の検証・実践



花き物流対策
共通台車の導入検討

4 肉用牛安定生産のための和牛子牛生産拡大(畜産)

肥育専業から競争力のある繁殖専業や繁殖肥育一貫経営への転換が進んでいる姿

- 指標項目:肉用子牛生産頭数 1,782頭 → 1,850頭

繁殖雌牛の飼養繁殖技術や子牛の哺育育成技術の向上

新規繁殖農家の掘り起こし、酪農家における受胎卵移植による肉用子牛生産の促進

III 産地の持続

収益性の高い野菜品目の安定生産が図られ、産地が維持・発展するとともに、新規生産者の確保、環境に配慮した栽培方法の普及により、産地評価が向上している姿

- 指標項目:スマート技術等の新技術導入の面積(イチゴ) 334a → 1,200a

スマート農業技術や総合的な防除体系(IPM)の導入促進

産地における新規就農者の受入・支援体制の整備

福祉事業所の農業参入などによる栽培者の確保



若手農業者向け
イチゴ栽培研修会

IV 持続可能な農畜産業のための環境整備

1 新規就農者の経営安定(就農者育成)

新規就農者の受入体制や育成の仕組みが構築され、就農者が地域に定着し、経営継続している姿

- 指標項目:就農計画を実現するために必要な改善目標を設定し達成した人数の割合 - % → 80%

就農ビジョンの策定支援、栽培や経営管理の技術向上に向けた重点指導

農地や施設等の輪転体制の整備、研修目的の拡大

2 担い手の経営理念の実現(経営管理・6次産業化)

担い手が経営理念に基づき、ステップアップの繰り返しで経営発展するとともに、地域に貢献している姿

- 指標項目:年度到達目標を達成した経営体数 - 経営体 → 105 経営体

生産物の高付加価値化や地域資源の活用促進

経営の法人化、第三者を含む円滑な事業承継、労働環境の整備、GAPの導入等による経営改善の促進

3 農業被害軽減に向けた獣害対策の推進(獣害)

獣害対策に取り組む集落が増加するとともに、獣害対策の高度化や効果継続に向けた集落体制が整備されている姿

- 指標項目:獣害対策の効果向上・効果継続等に向けた取組を実践した集落数 - 集落 → 100集落

新規の取組の開始に向けた集落点検、効果継続のための侵入防止柵の維持管理体制の構築

地域住民一体で取り組める体制づくり、隣接集落との対策に係る連携促進

4 みどりの食料システム戦略・SDGsへの対応(生産環境・畜産)

生産資材が適正に利用され、環境負荷の少ない生産方式により農産物の生産が進んでいる姿

- 指標項目:環境負荷低減事業活動に取り組む件数 - 件 → 80件

スマート農業技術を活用したリスク予測に基づく施肥・病害虫管理技術の普及

食物残渣などの地域資源を活用した資材(堆肥)の利用促進

<畜産>

飼料作物の耕種農家による生産と畜産農家による利用やエコフィードの利用拡大

が進むとともに、暑熱対策や堆肥の適正利用など畜産環境が保全されている姿

- 指標項目:WCS用稲作付面積 293ha → 330ha

WCS等を生産する耕種農家とそれを利用する畜産農家のマッチングの推進

良質な畜産堆肥の生産技術の普及と供給体制の整備促進



稲WCSの
飼料価値の調査

V 地域振興に向けた重点的な取組(地域農業改良普及センターの計画)

【桑名】木曾三川デルタ、北勢中山間地域における

総合防除推進

【四日市鈴鹿】茶産地の構造改革

【津】津産津消をきっかけとした持続可能な津市の

農業・農村づくり

【松阪】地域資源を活用した持続可能な農業生産

モデルの育成

【伊勢志摩】伊勢志摩の特色ある農業モデルの構

築

【伊賀】伊賀の農業を支える元気な集落づくり

【紀州】園地の再整備に伴う柑橘生産営農システム

の構築

※指標項目:現状値 → 目標値(令和8年度)